令和７年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　小森江　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、６年生を対象として、令和７年４月１７日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（４月１８日から４月３０日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

（１）教科に関する調査（国語、算数、理科）

①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

（２）児童質問調査

児童質問調査
○　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※ 本校の６年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮していま

３．教科に関する調査結果の概要

（１）　全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

（２）　本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な 傾向や特徴など	・「読むこと」においては、NIEなどにも取り組んできたことにより、一定程度の学力の定着が見られる。 ・「話すこと・聞くこと」においては、課題が見られる。
	よくできた問題	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉える問題。
	努力が必要な問題	自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題。

算数	全体的な 傾向や特徴など	・「図形」の概念について理解することができている。 ・「データの活用」においては、課題が見られる。
	よくできた問題	図形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題。
	努力が必要な問題	目的に応じて適切なグラフを選択して関係を読み取り、言葉や数を用いて記述する問題。

理科	全体的な 傾向や特徴など	・「地球」を柱とする領域では、一定程度の学力の定着が見られる。 ・「生命」を柱とする領域においては、課題が見られる。
	よくできた問題	水のしみこみ方の違いについて、実験結果を基に、ほかの条件での結果を予想して表現する問題。
	努力が必要な問題	発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見出し、表現する問題。

４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概

質問調査の結果分析
①「自分の考えが伝わるよう、工夫して発表しているか」との問いに対して、肯定的な回答をした児童の割合が低かった。 ②「自分にはよいところがある」との問いに対して93%、「友達の考えを大切にして、協力しながら課題の解決に取り組んでいる」との問いに対して96%と、肯定的な回答をした児童の割合が非常に高かった。 ①について、12月にとった児童アンケートでは、肯定的な回答をした児童が大幅に増えた（59%→92%）。また、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができているか」という問いにも89%の児童が肯定的な回答をしている。「学校は学びのテーマパーク」を目指し、探究的な学びを推進してきた成果と考えられる。 ②について、昨年度より異学年交流をさらに深めたり、主体的、個別最適に学ぶことを実践したりすることによって自己肯定感を高めることにつながったと考えられる。

５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

・子どもが自ら学びの目標を立て、挑戦・改善できる環境の整備。
・子どもが安心して意見を交わすことのできる学級風土の醸成。
・教師は、コーチ・ファシリテーター・コーディネーターへ。

②　家庭生活習慣等に関する取組

・毎学期、生活アンケートを実施し、個別面談、学級指導を行う。また、保護者とも連携し、基本的な生活習慣の定着・改善を図る。
・探究的な学びを深化させるための学校と家庭の学びの連動を図る。